

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 滋賀県立長浜養護学校 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ、Ⅴ 】
2 実施対象者	長浜養護学校伊吹分教室1年生10名 滋賀県立伊吹高等学校1年1組40名（体育コース）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 特別活動 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ インクルーシブ教育 ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・ボッチャは軽レクリエーションスポーツとして、障害の有無、年齢に関わらず楽しめるスポーツのひとつであり、パラリンピック種目のひとつでもある。 ○生涯にわたってスポーツを親しむための運動習慣の確立や余暇の充実を図る。 ○インクルーシブ教育の一環として、ボッチャを通して生徒同士が交流し、相互理解を深める。
5 取組内容	・分教室の生徒は、事前学習で数回ボッチャに取り組み、ルールやゲーム性などの理解を深めてきた。伊吹高校は、今回の事業が初めての体験となった。まず、分教室の生徒が実際に試合を行い、その後、分教室対伊吹高校で試合に取り組んだ。ボッチャはわかりやすいルールであるので、伊吹高校の生徒もすぐに理解し、取り組むことができた。
	
	↑ルール説明（分教室の生徒が実践）



↑分教室対伊吹高校



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャは、ボールを投げるとい動作がメインの運動であるので、運動が苦手な生徒にとっても、消極的な気持ちにならずに取り組むことができた。 ・交流をした伊吹高校の生徒は、体育コースに所属しており、ただ単に楽しむというだけでなく、どうすれば楽しくできるか、勝てるかななどを工夫して活動できた。分教室の生徒にとっても、高校生に触発されいつも以上に意欲的に活動ができた。 ・ボッチャは、高校生にとっては物足りない活動になるかもしれないと考えていたが、思った以上に意欲的に活動し、ゲームを楽しむことができた。 ・高校生との交流をすると、サッカーやバスケ、バトミントンなどの運動は、力の差がでてしまうことが多いが、ボッチャは、差が出ずに競い合うことができた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分教室は伊吹高校内に併設されているため、インクルーシブ教育の一環として、年に数回交流をしている。ボッチャは、実態に関係なく、楽しめるスポーツとして選択した。今年度だけで終わらずに、今後継続的に取り組んでいきたいと考える。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、学校ごとにチーム編成をしたが、両校の混合チームを編成して対戦することも取り入れればよかった。また、ボッチャ交流を今回だけでなく、継続的に取り組むことで、よりゲーム性が高まり、活動に幅が出るのではないかと考える。 ・今回は、軽度の知的障害の生徒との交流であったため、公式なルールで取り組んだ。障害の程度により、ルールを簡略化したり、コートの大きさを変更したりすることで、幅広い交流を深めることができると考える。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も両校の交流事業の中で、ボッチャを継続的に取り組んでいきたいと考える。